

平成 29 年 4 月 3 日

## 海外短期研修帰国レポート

理工学部物質生命理工学科

A1576578 土屋里緒

私は、2017 年 2 月 23 日～3 月 15 日の 3 週間にわたる、アメリカのノースカロライナ大学シャーロット校における研修を修了したことを報告いたします。研修を通して大きくまとめて 2 つのことを学び、自分の考えと日本への見方が変わりました。

研修の目的は、世界の最先端に行く米国の生活を実際に体験し、米国の授業を受けることで、自分の成長につなげることでした。もともと私は南米に 3 年間住んだ経験があり、英語での授業は初めてではなかったものの、日本での大学生活を送る中で英語を使ったり国際交流したりする機会がほとんどなくなったことが、自分のあるべき姿として納得できていませんでした。もとよりあまり人とコミュニケーションをとったりリーダーシップをとったりするのに積極的な性格ではなかったため、研修前は、物事に対して自分の限界の範囲内で、保守的に、単独で行動することが多くありました。

研修生は 1, 2, 4 年生の計 15 人で、そのほとんどと研修以前に面識はありませんでした。研修中はホテルに滞在し、2 人 1 部屋で、部屋には電子レンジ、冷蔵庫、テレビ、コーヒーメーカー等が備わっており、毎日清掃してもらえるので、不自由なかつたです。ホテルには小さなジムがあったので、個人的には、ほぼ毎朝 10 分だけ走ることで運動不足解消と生活リズムを規則正しくすることができました。ホテルから研修校までは van による送り迎えがあり、Program Assistants が送迎の運転及びアクティビティの同伴などをしてくれました。ホテルには、アシスタントの女性が一人ずっと泊まって何かあった際相談できる状態で、大学でも Program organizer の方々がサポートしてくれたので、安心でした。

研修を通して学んだことの一つ目は、コミュニケーションの大切さです。プログラムの中で、現地の学生と知り合う機会が設けられており、各々に仲の良い友人を得ることができました。現地の学生は、わたしたちの拙い英語をちゃんとくみ取ってくれ、また、レストランや遊び、自分の家にまでも車を出して連れて行ってくれました。彼らはフレンドリーで優しく、日本人に欠けている寛大な心を持っているとつくづく感じました。そんな彼らと接することで、相手を理解する気持ちと自分の考えを相手にきちんと伝えようとすることで良い関係を気づくことができ、そのコミュニケーションというものは、世界共通で社会に大切なものだと気づかされました。

さらに、自分に挑戦すること、行動してみることに、の必要性も学びました。英語を使って自分の意見を述べてみるのも大きな挑戦です。私は、英語を話すことに抵抗はなかったのですが、研修中には他の研修生と現地のスタッフや友人らとの間に立ち通訳役をするこ

とが多く、授業中もよく発言していました。研修最終日に、代表者としてスピーチ役を引き受けたのも、自分にしかできない貴重な経験となりました。細かい間違いを恐れず、とにかく話すことで、会話力語学力ともに向上になったと思います。また、フリータイムにはメンバーを気にせず色んな所に行きました。何をするにも自己責任で、自分次第で過ごす時間は楽しくでき、そのためには一歩踏み出して挑戦してやる必要でした。挑戦を行動に移すことは社会で生きていくうえでも大切なことだと思います。

以上、3週間という短期研修を経て様々な経験を得、いろいろと考えさせられるところがあったことを報告いたします。今まで漠然としていた進路についても、海外で働きたいという思いが強まり、海外インターンに行ける機会があれば、そこで自分の力を伸ばしたいと考えています。